



基地のない、夢のある宜野湾市を

沖縄県の復帰40周年記念事業として今後返還が予定されている基地の跡地利用について考える「中学生サミット」の発表会が2月2日(土)、沖縄コンベンションセンターで開催されました。市内からは普天間中学校が参加。発表会では、基地の跡地に夢のあふれる街が描かれ、さらにパフォーマンスを取り入れた堂々とした発表で会場を大いに沸かせました。2月13日(水)には、佐喜眞市長を表敬訪問。2年生の下地成和さんは「このサミットを通じて、基地の不便さや宜野湾市の良いところを知ることができ勉強になりました」と話しました。



全国に向けて飛翔

県中学校新人選手権大会で団体競技で優勝した真志喜中学校の卓球部の伊野波桃香さんと仲宗根寿々花さんが2月8日(金)、市役所を訪れ3月に奈良県で開催される全国大会出場を報告しました。伊野波さんは「県の代表としてふさわしいプレイをするためにこれまで以上に練習を積み重ねて、全国でも通用するように頑張ります」と全国大会に向けて抱負を語りました。



普天中学校卓球部が全国大会へ

第13回全九州卓球選手権大会(中学生の部)と県中学校新人選手権大会において準優勝を果たし、全国大会出場を決めた普天間中学校の皆さんが2月13日(水)、市長を表敬訪問しました。部長の長堂尚昌さんは「まずはリーグ戦突破をめざし、一つひとつの試合に集中したいと思います」と語りました。

友好合作都市・中国廈門市より

ニイハオ! ~その2~

第11期 宜野湾市海外留学生 比嘉 美和

あけましておめでとございます。現在は長期休暇で、湖北にある友達の実家で約一カ月のホームステイをしています。中国では春節の旧暦一月一日(今年は太陰暦二月十日)にお正月を迎えます。そのため、旧暦十二月二十四日(太陽暦二月四日)である今日は「小年」と呼ばれる日で、お正月に向けての準備をしています。また年末から新年にかけては結婚式も多く、あちこちから花火が打ち上がり、とても盛り上がりがあります。この式は、まず新婦が実家から車で新郎の家へ向かいます。この時、新婦の家具や布団などをトラックに乗せ、装飾された車が四、五台ほど列をなして新婦を送ります。そして、新郎の家について、新郎が新婦を抱えて家へ上がり、新郎親戚そろつての会食が始まります。私も知り合いの結婚式に参加させてもらいました。新婦が深紅のドレスを着ていることや、多くの人がお祝い金をトラックに積まれた布団に挟み込むなど、様々な発見があり興味深いものでした。

湖北での生活は沖縄とは全く違います。湖北は内陸に位置するため、一般の家庭で海鮮料理は食べません。しかし、川が多いので、毎日川魚を食べています。また最近では、初めての大雪を経験しました。景色はどこを見ても真っ白で、外には出ず、家の中で綿花の皮むき作業を

手伝いました。その他にも家畜(アヒル・ガチョウ・ウサギ)の世話など、初めての体験ばかりで毎日充実しています。先日の留学報告から約三カ月が経ちます。十二月は期末テストやHSK(中国語能力試験)があり、あまり都心に行くことはありませんでしたが、一月はアモイ国際マラソンへ参加し、中旬にはアモイにある友達の実家でホームステイをしました。そして、下旬から現在までは湖北の生活を体験しています。韓国人留学生も全員帰国し、次の学期は新しい留学生と勉強します。もうすぐで休みが終わり、3月には中国語試験があるので、気を引き締めて頑張ります!



▲後ろは収穫後の綿花畑。冬は綿花、夏は小麦の二毛作。(湖北)



▲初めてのフルマラソン出発! 32キロでタイムアップ……